



お知らせ
1月4日
市内全域
ごみ
収集を
します。

モデル地区

3年目の分別収集

モデル地区事業 今年3年目

これまでは全部混ぜて収集してきた、留萌市のごみ収集。多様化して増え続けるごみの減量化、資源化は法律の改正によることもありますが、地球環境のことやごみ処分に伴う膨大な経費等を考えるとごみを出す側も、集め、処分する側も一緒になって考え、行動する 때가来ています。

平成四年度から五年間、モデル地区事業を展開し、ごみの分類、排出、集積、収集運搬、処理と地域環境の美化について市役所と市民が一体となって取り組むことにしました。取り組みを通してそれぞれの役割と責任をしっかりと認識しあうことが求められるからです。一般ごみ、缶やビン紙などの資源ごみ、危険ごみ、粗大ごみの四種に分別して出します。

五ヶ年計画は市内五地区、

平均五百世帯を目処に毎年実施され、五年間で全世帯の二十五パーセントが分別収集を取り組めます。今年目は三年目です。

資源循環型の 計画をめざして

現在、留萌市は、廃棄物の処理について進んだ技術の導入による「資源循環型」の整備計画を進めています。新しい処理施設は、資源循環型施設として平成十年供用開始予定、また、留萌方式ともいわれる省資源、リサイクルの分別収集も快適環境づくりということを考え、今年三年目となったモデル地区事業の経験をもとに、平成九年には、全市で分別収集が一斉に始まりま

環境と安全を 前提に!!

昭和五十七年度に供用開始した浜中町に位置する、今の処分場「留萌市ごみ処分場」は、当初平成五年度まで全量埋立てによる使用予定でした。ごみの減量化や処分場の効果的活用等運営の努力をしても平成七年度にはほぼ満杯の状態になることが明らかとなったことから、使用年限が来る前に、その後の留萌市ごみ処理施設整備計画が必要となりました。平成元年度に留萌市のごみ処理についての基本構想づくりが始まったのです。

初めは、市民負担の軽減など経済的な側面を重視し、焼却埋立て方式ではなく、全量破砕埋立て方式が方向付けされました。

しかし、施設下流域に広がる稲作地帯への影響や鳥獣公害の発生などの問題が明らかとなりました。

地球を大切に 環境にやさしく

そこで、リサイクルプラザ整備計画として環境を守り高めるといったことが留萌市のごみ処理に当たって基本理念として位置付けられることになりました。

生ごみはコンポスト化、その他の燃えるごみは固形燃料としてそれぞれリサイクル活用することとなりました。

最終処分場についても焼却方式は熱利用するまでにごみ量が不足していることや、なによりも、大気汚